

おのきた

尾北校長室から

第35号



「柔らかい心」～ 成長のための基本姿勢

おはようございます。皆さんの夏休みはどうでしたか？ 休み前の集会では、3つのアルファベット、A・Y・A（あせらず、やすまず、あきらめず）で夢に向けて努力を続けよう、という話をしました。この夏にはオリンピックがあり、日本が獲得したメダル数は過去最多となったようです。可能性に挑戦し、最後まで全力を尽くす選手の姿に感動を覚えた人も多かったのではないかと思います。

さて今日は、夏休みを後にして新たな学校生活に歩を進める皆さんを応援するため、**可能性を拡げること**について一緒に考えてみたいと思います。キーワードは最後にいいますので、今回は皆さんが考えてみてください。ヒントは、自分の可能性を拡げるためにどんな姿勢でいたらよいか、です。

早速ですが、この**石**を投げると、石の方は割れないが床が傷つく恐れがあります。何かかぶつかるときに起こることは、モノだけではなく人も同じです。人とのやりとりの中で、どちらかがこの石のように「**硬く**」**接すれば、相手側が傷つく**恐れがあります。次に、この**ワイングラス**はどうでしょうか？ 今度はワイングラスの方が割れるでしょう。このように2つの異なるモノがぶつかる時には、**どちらか、もしくは両方が壊れる**恐れが常にあります。

もう一つ、この**コップ**ではどうでしょうか？ 実際に投げてみます。なぜ割れなかったか？ 実は、見た目はガラスと同じようでも、合成樹脂できていて**柔らかい**からです。床に落ちた時、コップの方が少し歪むことで衝撃を吸収しているからです。別の例——**竹**は幹も細く背丈もありますが折れにくいのは、節ごとに少しずつ曲がり、全体が「**しなる**」**ことで力を吸収**しているからです。

ここで、自分が壊れないように守る方法について考えてみます。どうやら2通りの方法がありそうです。一つは石のように、壊れないよう自分を硬くしていく方法。もう一つはこのコップや竹のように、逆に少し**柔らかく、自分の方が形を変える**ことで壊れないようにする、という方法です。自分が壊れることは、誰でも不安でいやなことです。だから自分を守るために、無意識の反応として自分の殻をどんどん厚く、硬くしがちです。しかし、**北高生には逆転の発想**で、このコップや竹のように、自らを柔らかくしなやかにして、受け止めることができる人であってほしいと思います。

では、その柔軟性をもつためにどうしたらよいか？ それには、まず、**柔らかく受け止めることで自分を守ることができる**ことを意識することからです。そして日頃から何事も積極的に受け止め、自分を少しずつ膨らませていくことです。成長とは、自分になかったものを取り込みながら限界を膨らませていくことであり、ある意味で、**成長するとはそれまでの自分を自ら壊していくこと**だからです。異なるものを受け止めることは、誰でもいつでも居心地のよいものではありません。しかしそれは、自分が変わっていく、つまり成長していくことだと考えてもらいたいと思います。

おわりに、9月には体育祭という大きな行事もあり、周りの人とのやりとりも多くなります。そういう時にこそ、自分が壊れないことを考えるのではなく、まずは自分の方が柔らかく受け止める、そういう余裕をもっておいてほしいと思います。

冒頭のキーワードについて、「可能性を拡げる基本姿勢」として私が設定したのは何だったか？ それは「**柔らかい心**」という言葉でした。この秋には季節が一つ回るというだけではなく、**柔らかい心**でワンランク上の自分を創っていきましょう。実りの秋に向け、皆さん一人一人の一層の「**心の成長**」を期待します。